

テスト結果の再認証方法



2020 年 7 月 30 日

Fluke Networks

フルーク・ネットワークス “ナレッジベース” より転載・翻訳

<https://jp.flukenetworks.com/knowledge-base/linkware-pc-9x/re-certifying-test-results>

はじめに

LinkWare™ PC の再認証機能を使用すると、異なるテスト規格や NVP または IR (Insertion Loss: 挿入損失) 値に対して既存のテスト結果に対する再評価が可能となります。ただし、この再認証ツールは、元のケーブル ID を使用する新しいテスト・レコードを生成しますが、テスト日時は再認証の日時となることにご注意ください。

この機能により次のような種類のテスト結果の再認証ができます。

- プロット・データを含むツイスト・ペア認証結果。
- 光ファイバー認証結果には、損失と長さの測定値が含まれます (これには、OTDR 結果や SimpliFiber® Pro または MultiFiber™ Pro メーターからの結果は含まれません)。

注: IEEE 規格では、一部のツイスト・ペア測定の名称が変更されています。

テスト結果を再認定するには、

1. LinkWare PC で、再認証するレコードを選択します。
2. [ユーティリティ] → [再認証] を選択します。
3. [再認証] ダイアログ・ボックスに表示される指示に従います。

LinkWare PC は、再認証されたレコードを新しいレコードとしてデータベースに保存し、「(RC)」を元のケーブル ID に追加します。

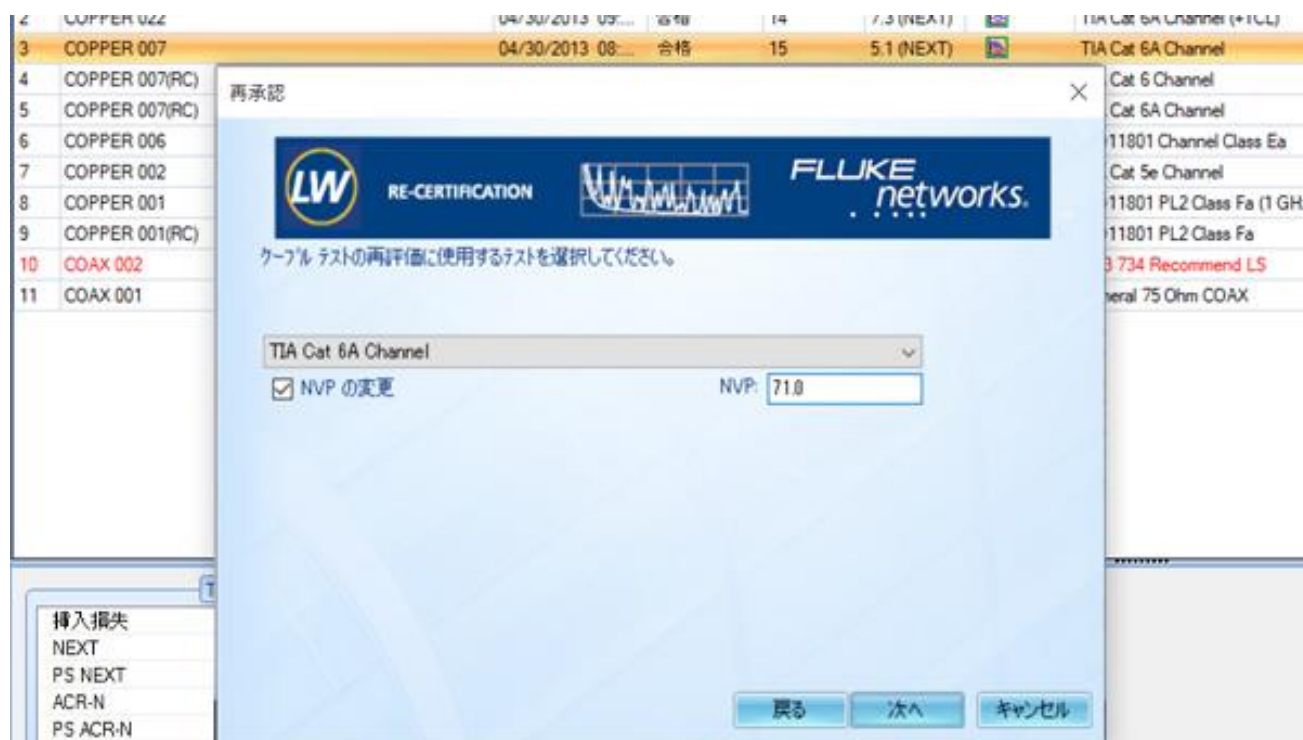
再認証された結果を受け入れてもらえるのかどうかを必ず最初に顧客様に確認してください。

- テスト結果の受け入れは、顧客と認証試験で求められる要件次第です。試験を開始される前に同意を得ておくことが重要です。同意していただいていた場合、再テストを余儀なくされる可能性があります。
- 初期テスト中に使用されたリミット値が同じ周波数範囲をスキャンしていなかった場合、一部のリミット値は再認証に使用できません。たとえば、TIA Cat 6 パーマネント・リンク (350 MHz までスキャン) の結果を TIA Cat 6A パーマネント・リンク (500 MHz までスキャン) に対して再認証できません。

メタルの再認証の例

ケーブルを再評価するテスト・リミットを選択します。

テスト・リミットをそのままにして、NVP のみを変更することもできます。



[次へ] を押すと、LinkWare PC は結果を評価し、「合格」または「不良」を表示します。[終了] をクリックして再認証結果をプロジェクトに追加します。

再認証結果に表示される日時は、再認証プロセスが発生した日時を反映しています。

[「テスターで NVP が正しく設定されていない - それは問題ではありません」](#)を参照。

カスタム・リミット値に対する光ファイバー再認証

通常の光ファイバー認証リミット値に加えて、設定可能なカスタム・リミット値もあり、各波長でのカスタム・リミット値や指定したカスタム長リミット値に対して光ファイバー結果を再認証するために使用できます。

ハイライト表示された行の下の各フィールドを設定して、カスタム・リミット値を入力することができます。

[IR の変更] では、光ファイバー結果の屈折率の設定を変更することができ、このパラメータはケーブル長の計算に使用されます。



再承認

LW RE-CERTIFICATION FLUKE networks

ケーブル テストの再評価に使用するテストを選択してください。

[カスタム規格]

IR の変更 n: 1.4960

編集するリスト・アイテムを選択してください

カスタム規格名	カスタム規格
850 nm 損失規格 (dB)	8.50
1300 nm 損失規格 (dB)	4.50
1310 nm 損失規格 (dB)	3.50
1550 nm 損失規格 (dB)	3.50
長さの規格 (m)	2000

戻る 次へ キャンセル

[次へ] を押すと、LinkWare PC は結果を評価し、合格または不合格を表示します。[終了] をクリックして、再認証結果をプロジェクトに追加します。

再認証結果に表示される日付と時刻は、再認証プロセスがいつ実施されたかを示しています。

フルーク・ネットワークスについて

フルーク・ネットワークスは、優れた認証/トラブルシューティング/インストレーション・ツールを提供する世界大手企業です。当社の製品は、重要なネットワーク・ケーブル配線インフラを設置・保守する技術者を対象にしています。弊社は、信頼性と比類ない能力において高い評価をいただいております。最先端のデータ・センターの設置から災害時の電話サービスの復旧作業に至るまで、すべての作業を効率的に行います。

DSX-8000 CableAnalyzer™ - メタル配線認証手順のステップの時間短縮を加速化します



[DSX-8000 CableAnalyzer](#) は、最も厳しい測定精度要件である TIA の精度レベル 2G に適合する一方、比類のないスピードで Cat 8 および Class I/II のメタル認証試験を効率化します。ProjX 管理システムは、作業の確実な実施を実現し、試験のセットアップからシステムの検収までの作業進捗状況の把握を容易にしてくれます。Versiv プラットフォームは、光ファイバー試験 (OLTS と OTDR の両方) もサポートします。このプラットフォームは、将来の規格改定へのサポートに備え、容易にアップグレードが可能です。近端漏話、反射およびシールド不良を含む不良原因のグラフィカルな表示を行う Taptive (タップティブ) インターフェースにより不良原因のより素早いトラブルシューティングができます。また LinkWare PC 管理ソフトウェアを使用し、試験結果の解析と専門的なテストレポートの作成が可能です。

CertiFiber® Pro - 光ファイバー認証試験プロセスのすべての段階の作業効率を上げ、加速化します

[CertiFiber® Pro](#) は、2 波長、2 本の光ファイバー認証の効率を改善し、試験をわずか 3 秒で実施できます。Taptive (タップティブ) インターフェースにより、セットアップの簡素化、間違いの排除、さらにトラブルシューティングのスピードアップが図れます。基準値設定の自動ガイダンス機能により、確実な基準値設定が可能になり、負の損失結果発生もなくなります。OptiFiber Pro モジュールと組み合わせ、Tier 1 (基本) / Tier 2 (拡張) 試験とレポート作成のすべてを行えます。便利な 4 波長モジュール によって、シングルモードとマルチモードの両方に対応できるばかりでなく、マルチモードの EF 適合性能もサポートします。



OptiFiber® Pro OTDR - データ・センター/企業向け光パルス試験器



[OptiFiber® Pro OTDR](#) は、業界初の企業/データ・センターの課題解決向けに一からデザインされた光パルス試験器です。シンプルでこれまでにない効率性、さらにキャンパス、データ・センターおよびストレージ・ネットワークのトラブルシューティングに正に必要な機能群を組み合わせたツールで、現場の技術者を、専門知識を備えた光ファイバー専門技術者に変えてしまいます。すなわち、業界唯一のスマートホン・タイプのユーザー・インターフェースを備えることで光ファイバー試験を新たな高みに導きました。そして、DataCenter OTDR コンフィギュレーションにより、データ・センター試験における不確実性やエラーが排除されます。その極めて短いデッドゾーンにより仮想化データ・センターにおける光ファイバー・パッチコード試験も可能にします。

FI-7000 FiberInspector™ Pro - 光ファイバー・コネクタ一端を 2 秒で自動合否判定

[FI-7000 FiberInspector™ Pro](#) は、汚れ、へこみ、小片、および傷による問題箇所をグラフィカルに表示します。業界標準規格の IEC 61300-3-35 に基づき判定できるため、端面検査における主観的な判断を削除することができます。



Versiv 製品選択ガイド

Versiv をどのように使用しますか?

選択ガイドへのリンク

フルーク・ネットワークス
株式会社 テクトロニクス&フルーク フルーク社

〒108-6106
東京都港区港南 2-15-2 品川インターシティ B 棟 6F
TEL 03-4577-3972 FAX 03-6714-3118
Web サイト: <https://jp.flukenetworks.com>
©2022 Fluke Networks Inc. All rights reserved.
Printed in Japan 11/2022 7003675B